

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
平成25年度 第1回CCC看護学グループ運営委員会 議事概要

I. 日時：平成26年2月8日（土） 10：00～12：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者：宮本委員、仲井委員、石橋委員（事務局：井端事務局長、森下主幹、平田）

### III. 検討事項

今年度は教育の質的転換に向けた教育改善の促進を目指して、昨年度とりまとめた「ICTを活用した分野別の教育改善モデルの提言」と、それに対するサイバーFD研究員の意見を踏まえて、学生の能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実現していくための効果的な取り組み方や教員の職能開発等について、今後の研究課題を検討することになっている。そのため、今回は、看護学分野における教育改善モデルに対するサイバーFD研究員の意見を確認した後、本委員会における平成26年度の研究課題について検討した。

#### 1. 教育改善モデルの見直し、修正

サイバーFD研究員によるアンケートは、242件に送付したところ6件の意見が寄せられ、意見を踏まえて見直しを行い、以下の通り教育改善モデルを修正した。

① 「教育者の視点から作成されたモデルと考えられるが、高等教育では「学習者」の視点からモデルを作成することが重要」との意見があり、学習者の視点も入ったモデルであることが理解されにくかったため、「図1 授業の仕組みのイメージ」にある「学修ポートフォリオによる評価」を「学修ポートフォリオによる進捗状況の確認」に修正し、学生の視点であることを明確にした。

また、「図2 グループワーク～発表のイメージ」および「図3 実習前・事後の自己学修のイメージ」のそれぞれ図中にある「生活指導を要する事例の作成」を行うのは、教員以外に学生も想定されることから、同文言の上に表示されている「教員」（枠囲み）を「教員・学生」に修正することにした。

この他に、図2および図3に記載の「ワークの目的・方法に関する事前講義」は教員が行うことを明示するため、同文言の上部に枠囲みで「教員」と追記することにした。

② 「授業運営にあたっては、企画運営、コンテンツやネットワークの管理、教育内容の設計、更新作業など十分な要員・組織が必要で、インストラクショナルデザイナーなどの専門家の導入も必要」との意見については、第3節「【3】教育力を高めるためのFD活動と大学としての課題」「(2) 大学としての課題」の「① FD及びインストラクショナルデザインなどの専門家を大学として招聘し、研究会等を通じて教育方法の理解の普及を図ることが必要である。」として、研究会等で招聘する講師にインストラクショナルデザインの専門家も追加した。

③ 「異なる学年を対象とする場合は、実現の可能性を議論する必要があるのではないか。」と

の意見については、学年や能力が異なる学生同士が共に学ぶことにも意義があると本委員会では考えているため、特にモデルの修正は行わないことにした。

- ④ 教員の教育力について「看護の実践力と教育力をもった教員について検討する必要がある」との意見については、モデルの第3節「【1】看護学教員に期待される専門性」で「④ 学内外の人的・物的・情報資源を活用して教育のマネジメントができること。」と提案しており、各専門家の能力を活用し教育を行っていくマネジメント力が教員にとって必要と委員会では考えているため、モデルは修正しないことを確認した。
- ⑤ 「グループ学修についての評価を行うのかどうかイメージがわからない。」との意見については、モデルでは、評価よりも学びのプロセスを重視していること、また、グループへの貢献度や学修ポートフォリオを踏まえた学びの進捗状況などによる個人評価を実際には行うことになる旨を確認し、モデルに追加修正は行わないことにした。

## 2. 本委員会の今後の検討課題について

平成26年度から本委員会では、学生の能動的学修（アクティブ・ラーニング）を実現していくための効果的な取り組み方について検討することを予定している。そのため、これまでのような授業モデルの提案ではなく、具体的な事例を示し、場合によっては教員が集まり対話を通じて理解を深めるなど、授業で教員が実現していくことを目指して活動していきたい旨、事務局より説明した。

そこで、今後の本委員会の課題について検討したところ、以下のような意見があった。

- ・今後の看護学の教育では教育改善モデルの他にとりあげるテーマがあるかどうか。
- ・他のテーマをあげたとしても、モデルを応用して検討していくことができるので、アクティブ・ラーニングの実践のために、新たな研究テーマを考えなくてもよいと思われる。
- ・モデルでのアンケートにもあったように、北里大学での Moodle 導入などの実践例を対話集会で紹介し、教員間で議論していくのも面白いと思われる。
- ・事例としては、看護情報学を実施している大学もよいと思われる。

以上の意見を踏まえて、本委員会では平成26年度に対話集会を開催して、アクティブ・ラーニングを実践するために参考となる事例紹介と意見交換を行うこととなり、9月上旬頃の開催を目指して委員会を1～2回開催し、開催日・場所、プログラム企画など準備を行うことを確認した。

また、対話集会の事例紹介候補として、北里大学に可能性を確認し、本委員会の委員として適任者に参画いただくことも併せて打診することにした。

## 3. 次回委員会までの課題

北里大学に事例紹介と委員就任の可能性について委員を通じて打診することにした。

## 4. 次回委員会

次回は4月19日（土）10：00より開催し、対話集会の事例内容、開催日・場所など詳細を検討することにした。